

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木克宗

事業の概要

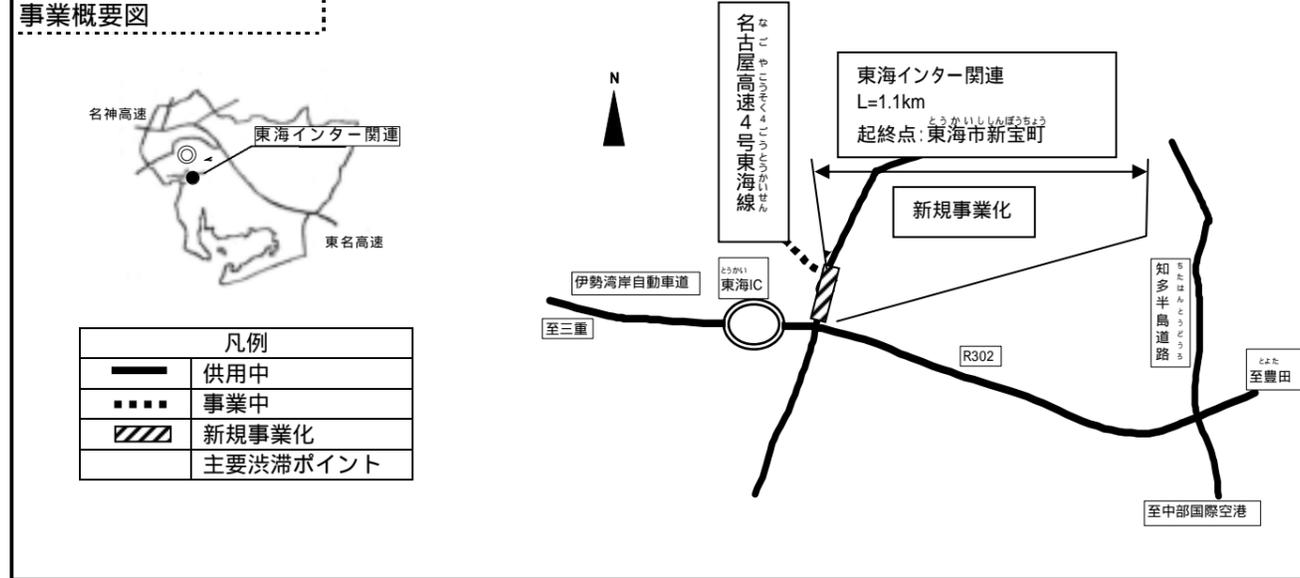
事業名	一般国道247号東海インター関連	事業区分	一般国道	事業主体	愛知県
起終点	自：愛知県東海市新宝町 至：愛知県東海市新宝町		延長	L = 1.1 km	

事業概要
一般国道247号は、愛知県名古屋市を起点とし、愛知県豊橋市に至る延長約180kmの幹線道路で自動車専用道路「西知多産業道路」と接続する重要な路線である。
東海インター関連は、名古屋高速道路4号東海線の整備に併せてランプ部整備を図ることで、名古屋高速道路と一体となって広域ネットワークを形成する延長約1.1kmの道路である。

事業の目的、必要性
国道247号と県道名古屋半田線との交差点である新宝町交差点では、慢性的な渋滞が発生している。このような状況の中で名古屋高速4号東海線が供用されるとますます当該交差点への負荷が予想されるため、名古屋高速4号東海線と国道247号を直結させることによって、交差点への負荷軽減を図ると共に、中部国際空港を始めとする知多半島方面へのアクセス強化に大きく寄与するものである。

国道247号と県道名古屋半田線との交差点である新宝町交差点では、慢性的な渋滞が発生している。このような状況の中で名古屋高速4号東海線が供用されるとますます当該交差点への負荷が予想されるため、名古屋高速4号東海線と国道247号を直結させることによって、交差点への負荷軽減を図ると共に、中部国際空港を始めとする知多半島方面へのアクセス強化に大きく寄与するものである。

全体事業費	29億円	計画交通量	5,895台/日
-------	------	-------	----------



関係する地方公共団体等の意見
東海インター関連は、名古屋市と中部国際空港を結ぶルートの渋滞緩和を果たすことを期待されており、2005年2月に開港した中部国際空港との連絡強化を図るため、中部経済連合会から当該路線の早期整備の要望（平成15年7月）を受けている。

事業採択の前提条件
費用便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：都市計画決定済み（平成17年10月）

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.0	総費用：26億円 （事業費：25億円 維持管理費：1億円）	総便益：80億円 （走行時間短縮便益：73億円 走行費用減少便益：10億円 交通事故減少便益：-3億円）	基準年：平成17年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)		
		事業費変動	B/C= (事業費 %)	B/C= (事業費 %)		
	事業期間変動	B/C= (事業期間 %)	B/C= (事業期間 %)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		渋滞交差点の負荷軽減を図る 【渋滞損失時間の改善】約0.02万人時/年 約0.004万人時/年 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】約18.9万人時/年km（現況） 【愛知県平均：約4.9万人時/年km（約3.9倍） 全国平均：約2.0万人時/年km（約9.5倍）】 【渋滞度曲線】愛知県内センサス区間：297位/1515（全体の69%に含まれる） 【渋滞ポイント】1箇所 0箇所（新宝町交差点）		
		事故対策	-	-		
		歩行空間	-	-		
	社会全体への影響	住民生活	-	-		
		地域経済	-	-		
		災害	-	-		
環境			【沿道環境の改善】 CO2排出削減量：約11.6t/年（約0.9割削減） NO2排出削減量：約5.3t/年（約1.0割削減） NO2排出削減量：約0.5t/年（約1.0割削減）			
	地域社会		名古屋高速4号線との直結接続に伴う中部国際空港への連絡強化。			
事業実施環境	-	-				

採択の理由

費用便益比が3.0と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
また、当該事業箇所の現況渋滞損失時間及び事業実施による渋滞損失削減時間はともに大きく、渋滞対策の必要性・社会全体への効果は高いと判断できる。
以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。